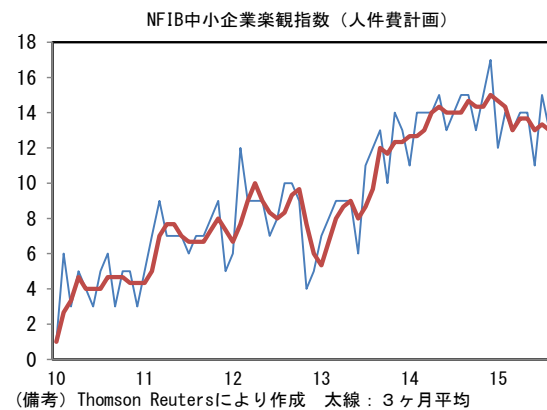
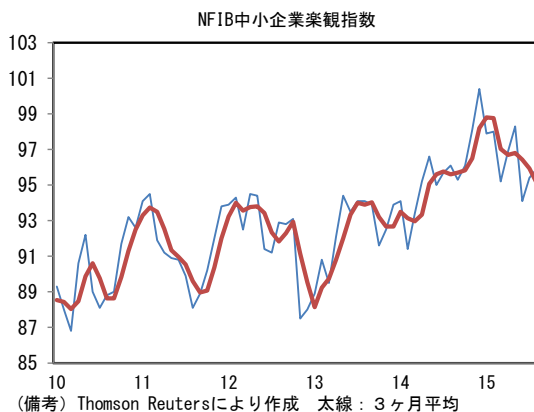
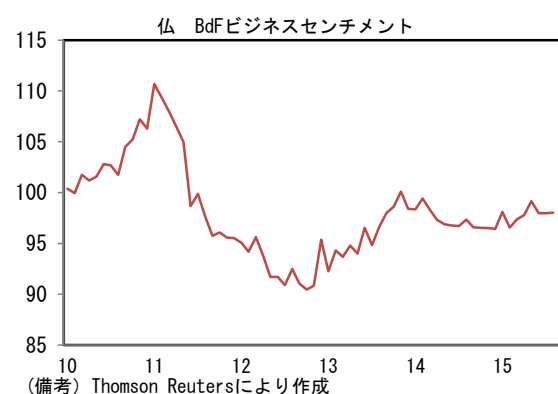
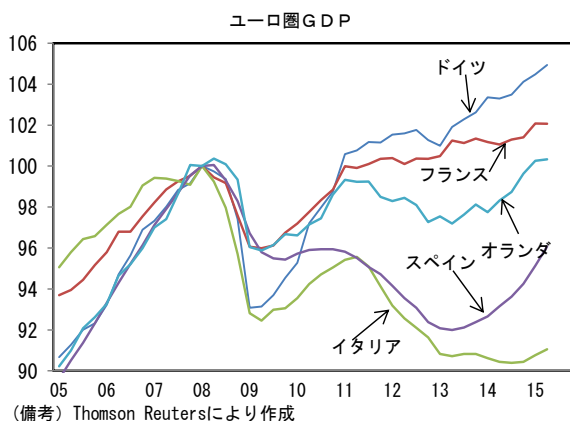


【海外経済指標他】～NFIB指数：まずまず～

- 8月NFIB中小企業楽観指数は95.9と市場予想（96.0）に概ね一致。3ヶ月平均でみると軟化基調にあるものの、この間の金融市場の混乱や中国経済の減速懸念を考慮するとまずまずの結果だろう。サブ項目は雇用計画（+12→+13）が上向きに転じた一方、人件費計画（+15→+13）が僅かに軟化したものの、均してみれば横ばいを維持。その他では設備投資計画（+24）が横ばいに留まり、軟化傾向が確認された。



- ユーロ圏GDP（2Q改定値）は前期比+0.4%と速報値（+0.3%）から上方修正。前期比年率では速報値の+1.3%から+1.4%に加速。個人消費が前期比+0.4%と強く、輸出も+1.6%の伸びを記録するなど好調。一方で、在庫寄与度は▲0.1%の下押し。バランスの良い成長が確認された。
- 8月フランスBdFビジネスセンチメント指数は98と市場予想（99）を下回った。直近1年程度のレンジ（97-100）で一進一退が続いている。フランス中銀は3Qの成長率予想を前期比+0.3%とした。
- 7月独貿易収支は228億ユーロの黒字と概ね市場予想に一致して過去最高を更新。輸出が前月比+2.4%、輸入が+2.2%伸び、それぞれ過去最高を更新するなどバランスも良い。

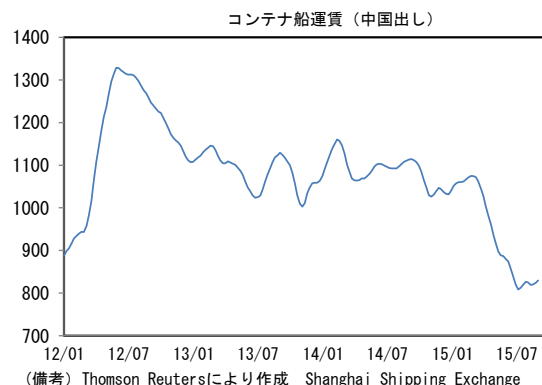
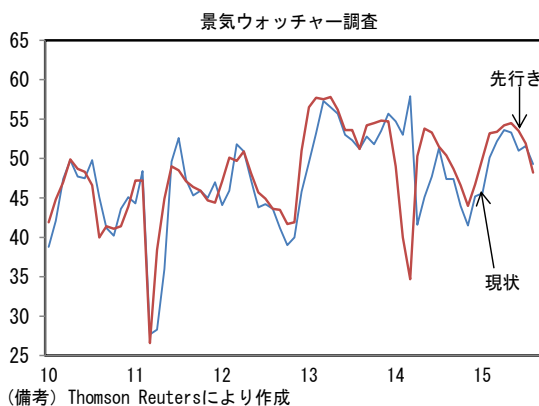


【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は大幅反発。雇用統計後の下落を経て値ごろ感が台頭。欧州株や中国株の反発も追い風。欧州株は総じて堅調で主要国は軒並み1%超ラリー。
- ・前日のG10通貨はJPYが最弱でそれにCHF、USDが続いた。USD/JPYは中国株反発を手がかりに反転上昇。ユーロは1.12を回復した後、下落に転じた。資源・新興国通貨は投資家センチメントが安定するなかで全面高の展開。AUD、NZDはそれぞれ1.3%高。
- ・前日の米10年金利は2.183%（+5.8bp）で引け。株式市場が大幅反発するなか、相次ぐ起債を受けて売りが優勢。他方、欧州債はコア横ばい、GIPS堅調。独10年金利が0.676%（+0.1bp）で引けた一方、イタリア（1.834%、▲5.9bp）、スペイン（2.049%、▲9.2bp）は大幅に金利低下。対独スプレッドは大幅にタイトニング。

【国内株式市場・経済指標他】

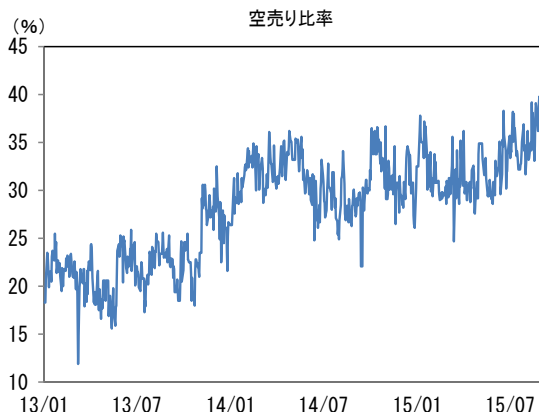
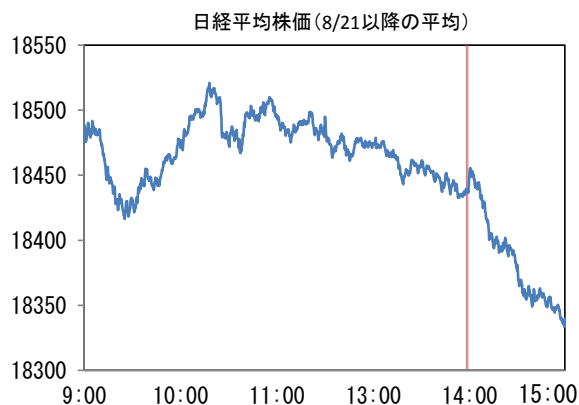
- ・日本株は欧米株高に追随して窓明けオープン。USD/JPY上昇も追い風となり、日経平均は18000を回復して前引け。
- ・昨日発表の8月景気ウォッチャー調査によると現況指数は49.3と市場予想（52.0）を大幅に下回り、7月（51.6）から悪化。先行きも48.2と市場予想（52.4）を大幅に下回り、7月（51.9）から悪化した。現況は7ヶ月ぶり、先行きは8ヶ月ぶりの50割れで、それぞれ年初来の上昇を帳消しにしている。調査期間が8月25日から月末だったため、この間の円高・株安が逆風となった可能性があるほか、悪天候も影響したとみられ、実勢以上に弱めにでている可能性は否定しない。とはいえ、それを割り引いたとしても失望的な水準にあることに変わりはなく、景況感の悪化が懸念される。
- ・昨日発表の8月中国貿易統計によると輸出は前年比▲5.5%、輸入は前年比▲13.8%とそれぞれ市場予想（▲6.6%、▲7.9%）を下回った。貿易収支は602.4億ドルと5月（430.3億ドル）から拡大したが、輸入の減少が主因のため好内容ではない。注目の素原材料輸入は銅が加速した一方、鉄鉱石、原油が減少しており底打ち感はみられない。天津の爆発事故、軍事パレードに伴う経済活動の抑制など一時的要因が影響した可能性は否定しないものの、それを除いても貿易に加速感はないと判断される。それを裏付けるようにコンテナ船運賃は9月に入っても停滞したままだ。



【注目点】

- ・8日の日本株は8月21日以降のパターンに従って後場に下落幅拡大。本日の日経平均は前場に一時6%近く上昇するなどムードが好転しているが、引け間際、特に14時以降の下落には引き続き警戒が必要だろう。特に欧米株が1%超のラリーを演じた翌日は、その日の欧米株反落が意識され易いため要注意だ。オーバーナイトリスクが低下しない限り、後場の買いは手控えられよう。
- ・8日まで東証1部の空売り比率は6営業日連続で40%を超えていた。ここから察するに、本日の東京市場

は売り方の買戻しが先行していると判断されるが、それが持続的な相場反転に繋がるかは微妙なところ。つまり、欧米株のボラティリティが低下しない限り、日本株は豊富な流動性と年初来の好パフォーマンスが仇となり、売りの対象にされ易いということに尽きる。9月17日のFOMCで利上げが見送られるまで、こうした状況が続く可能性があるだろう。



<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	18365.94	938.86
N Y ダウ	16,492.68	390.30
D A X (独)	10,271.36	162.75
FTSE100 (英)	6,146.10	71.58
CAC40 (仏)	4,598.26	48.62

<外国為替>※

USD/JPY	120.28	0.47
EUR/USD	1.1194	-0.00

<長期金利>※

日本	0.369 %	0.014 %
米国	2.183 %	0.058 %
英国	1.839 %	0.033 %
ドイツ	0.676 %	0.001 %
フランス	1.102 %	-0.023 %
イタリア	1.834 %	-0.059 %
スペイン	2.049 %	-0.092 %

<商品>

N Y 原油	45.94 ドル	-0.11 ドル
N Y 金	1120.70 ドル	-0.20 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

